

経口ワクチン散布のこれまでの成果と今後の計画

■これまでの成果

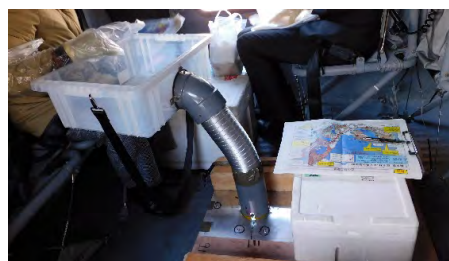
- 2019年3月から岐阜県、愛知県の2県で散布を開始し、野生イノシシの陽性個体確認を踏まえ、散布対象県を拡大（計23都府県）し、2021年3月までに**約100万個**を散布予定
- 散布時期の早い岐阜県や愛知県においては他の散布地点と比較して野生イノシシの抗体保有率が高いことを確認
 - ・ 抗体付与には一定の時間を要することを踏まえ、専門家による効果検証を経つつ、散布計画を改善しながら、散布を実施
- 防衛省・自衛隊の協力を得て実証を行い、経口ワクチンの空中散布マニュアルを作成（**本年3月に栃木県と静岡県で空中散布を実施予定**）

■2020年度からの主な改善・変更点

専門家の意見を伺いつつ、以下の見直しを行う予定。

- 我が国の気候条件等から散布時期を**3期から2期に変更**
- 山塊への立ち入りを抑制するため、散布作業前後に実施している**餌付けや回収を原則として省略**
- 散布作業の省力化のため、**ドローンやベイトステーション（給餌器）も活用**

<参考> 空中散布の作業風景（機内）



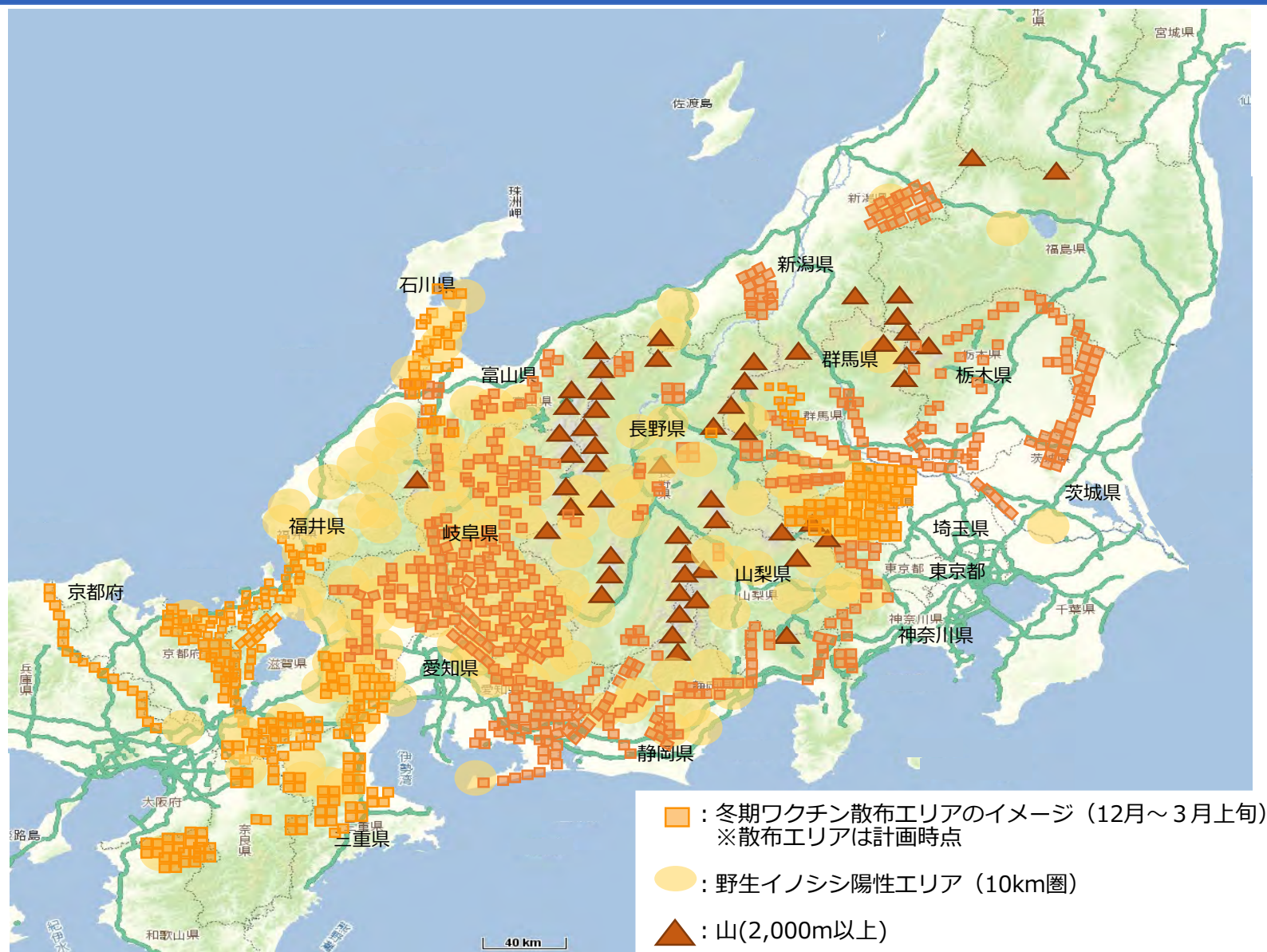
<参考> ベイトステーションの例



■2021年度の計画

- 経口ワクチン散布は予防的ワクチン接種と連動し、陽性イノシシ発生都府県及びその隣接都府県を対象に実施
- 経口ワクチンはドイツからの輸入により**約86万個**を確保する計画
- 散布時期の変更等による効果の知見を収集
- ドローンやベイトステーション（給餌器）を活用した散布作業の省力化を検証
- 専門家による効果検証を経つつ、散布方法を改善
- 必要に応じ、豚熱経口ワクチンの野外散布実施に係る指針を改訂

2020年度冬期経口ワクチン散布エリアのイメージ



○ ワクチン散布実施県 (計23都府県散布開始順)

岐阜県、愛知県、福井県、三重県、長野県、富山県、石川県、静岡県、滋賀県、群馬県、埼玉県、神奈川県、栃木県、茨城県、山梨県、京都府、東京都、新潟県、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県、千葉県 (千葉県は、協議会設立済・未散布)